

小・中連携による継続性のある仕組みづくり

～「伊佐地区地域協育ネット」の取組～

【美祢市 伊佐中学校区】

地域の概要

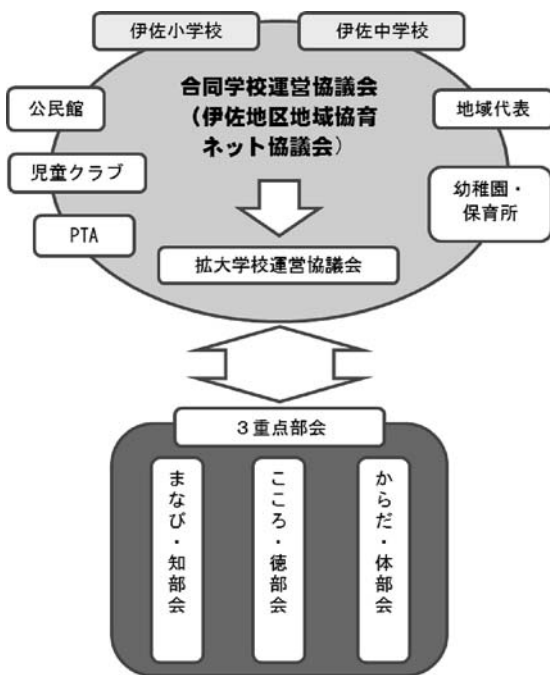
伊佐地区は、美祢市のほぼ中央に位置し、秋吉台カルスト地帯に連なる山あいの町です。伊佐川に沿うように田畑が広がり、周囲を緑豊かな森林に囲まれた盆地です。豊富に産出する石灰石を加工・利用する工場が校区内にあり、高い煙突と採掘場の風景が特徴的です。鉱工業や農業を産業の中心として、他地区との交流も進んでいます。地域のまとまりがよく、教育活動にも協力的です。

人口	3,361人	
世帯数	1,463世帯	
対象校及び 児童生徒数	伊佐中学校	69人
	伊佐小学校	135人

組織の内容

伊佐地区合同学校運営協議会 組織図

(伊佐地区地域協育ネット協議会)



伊佐地区の「地域協育ネットは」、伊佐小・伊佐中合同の学校運営協議会がその推進母体となっています。年数回開催されている協議会は、校区内の小・中学校のPTA関係者、地域代表、公民館、幼稚園、保育所、児童クラブ関係者で構成され、情報交換や連絡調整を行っています。

また、年2回の拡大学校運営協議会では、上記の委員に加えて、小・中学校のPTA役員や全教職員が参加し開催しています。多くの関係者が情報交換や意見交換を行い、地域全体で子どもたちを育む意識を醸成しています。

伊佐小・中合同学校運営協議会（伊佐地区地域協育ネット協議会）は、図に示すとおり、三つの重点部会を組織し、それぞれにおいて、小・中学校の9年間を見通した取組が行われています。

今後、県や市の支援を受けながら、地域コーディネーターを配置する予定です。

特色・重点的な取組

一小一中であるため、小学校と中学校の結び付きが強く、地域も学校教育に協力的です。「めざす伊佐っ子像」を地域と学校が共通理解し、重点部会ごとに小・中学校の9年間を見通した一貫性のある取組が行われています。三つの部会には、地域代表者、教職員、保護者が所属し、小・中学校の教職員の交流だけでなく、地域関係者と学校教職員の交流も盛んになりました。

部会ごとに、今抱えている課題を明確にし、その解決に向け共通して取り組む事項、また取組方法を話し合い、伊佐地区で児童生徒をどのように支援していくかを確認しています。家庭学習の充実、6年生を対象とした三日間の「中学校授業体験」の実施、生活習慣の見直しなど、小・中学校で連携して取り組んでいます。

主な活動の紹介

伊佐小・中合同学校運営協議会（地域協育ネット協議会）は、三つの重点部会に分かれて活動しています。それぞれの部会で小・中学校の9年間を見通した一貫性のある取組をしています。

まなび・知部会

地域に呼びかけて、学習支援ボランティアや地元伊佐を学ぶ「伊佐学」の講師を募集しました。小学生が中学校に出向いて、合同の授業に取り組みました。



学習支援ボランティア



伊佐学（地元伊佐について授業）



小中合同授業（小6授業体験）

こころ・徳部会

中学生が小学校に出向いて共に「あいさつ運動」に取り組みました。幼保・小の連携や地域の高齢者の方とのふれあいなど、様々な年齢の人と交流しています。



小学校への出前あいさつ運動



幼保・小の連携活動



孫の日参観日

からだ・体部会

地元婦人部が生産している豆腐作りを体験しました。また、食育推進委員にみそ汁作りを指導していただくなど、専門的な指導・支援をいただきました。



地元婦人部と豆腐作り



食育推進委員と味噌汁づくり・食育指導



歯磨きブラッシング指導

成果と課題

「まなび・知、こころ・徳、からだ・体」の三つの重点部会を組織し、それぞれの部会ごとに目標となる視点を定めています。この視点を共通理解することで、地域の「めざす子ども像」が明確になりました。「めざす子ども像」の具現化に向けて、発達段階に応じた活動や継続して取り組む活動を計画しました。また、拡大学校運営協議会では、小・中学校のPTA役員や全教職員が参加し、伊佐地区全体の意識の高揚を図ることができました。

しかし、課題もあります。学校支援ボランティアとして、地域の多くの方に支援していただく方が大切です。地域と学校をつなぎ、調整するコーディネーターの人選を行い、より効果的に地域の教育力を生かせるシステムの構築が必要です。併せて、地域や学校の過重な負担とならないよう、段階的な整備の検討も重要であると考えています。

今後の取組

小学校と中学校の間で、地域人材の情報や活用について、より一層の情報交換を図ります。また、地域へ情報発信をすることで、学校支援ボランティアの方に学校について理解を深めていただくとともに、児童生徒による地域貢献も充実させたいと考えています。